



カリキュラム／教師教育両コンポーネント活動状況 (2020 年 6 月)

新型コロナウイルスの影響が世界各地へと広がっています。前回号に引き続き、今回も、ミャンマーの学校の現状と、プロジェクトの状況をご報告します。

ミャンマーの学校の現状

予想されたとおり、6 月 1 日の新学年開始は見送られ、7 月 21 日に高校、8 月 4 日に中学校、8 月中旬に小学校の授業を開始するとの日程が発表されました。新規コロナ感染者数は概ね毎日で推移しており、外出制限も少しずつ解除されましたが、マスク着用の義務化、外国人の入国制限等、厳しい措置が続く中、教育省や学校関係者は開校にむけ、緊張感をもって感染予防策の準備を行っています。海外での出稼ぎからの帰国者の隔離施設として使用されていた学校の消毒、児童数に応じた通学パターンの設定、感染予防のための物品の配布等が進められています。

4 月から続いた移動制限の影響により、通常は前年度の最後に行われる卒業試験結果の採点と集計が中断されていましたが、6 月 1 日に公務員の自宅待機が解かれると同時に再開され、約 2 週間という異例のスピードで進級の通知が行われた模様です。

同時に、いったんは中止の決定がなされた新カリキュラム導入のための対面研修は、一転、オンライン研修に続いて 14 日間を 6 日間に短縮して実施されました。

- 5 月 21 日：オンライン教材による自習開始
- 6 月 5 日：オンライン研修開始
- 6 月 12～13 日：ライブ配信による ToT 研修
- 6 月 15 日～20 日：各タウンシップでの対面研修



プロジェクトの現状

カリキュラム開発および、教員養成校カリキュラムに資する教材の開発は、4 月から 5 月の 2 カ月間、全メンバー在宅勤務にて実施しましたが、6 月からは、政府の方針に従い、教育省カウンターパートとプロジェクトスタッフの現地メンバーはプロジェクトオフィス勤務に戻りました。移動制限が緩和されつつあるとはいえ、医療体制が脆弱なミャンマーではコロナ感染は大きなリスクとなります。ソーシャルディスタンスが取れるよう、オフィスの部屋割りや机の配置の変更といった感染予防対策を講じ、ガイドラインの作成や勤怠管理の例外措置の導入を行う等、安全に業務にあたってもらうために考える限りの方策を立て、リスク低減にあたっています。



日本にいる専門家とのオンライン会議の様子



オフィスでは、席の間隔をあけ、パーテーションを設置



手洗いの様子とオフィスに設置している手洗いの方法を示したポスター

新カリキュラム導入研修

新カリキュラム導入のためのオンライン研修中には、教育省が用意したオンラインプラットフォーム（MDEP: Myanmar Digital Education Platform）や、その上に設けられた DBE Box サイトに、プロジェクトにて開発した教科書および指導書、1 月から 2 月にプロジェクトが協力して実施した中央研修の映像やプロジェクトが制作した授業映像が掲載されました。対面研修のトレーナーのための研修はプロジェクトオフィスから配信され、研修モジュールなどの教材の配布もプロジェクトにて行いました。きわめて限られた準備期間だったにもかかわらず、なんとかタウンシップごとの研修も開催されている様子が、現地のテレビ番組でも連日放映されました。プロジェクトの専門家も日夜遠隔サポートを行いましたが、感染対策を講じながら全国研修を実現させた教育省と学校関係者、プロジェクトのカウンターパートとスタッフのがんばりにはほんとうに感謝です。

休校中の学習支援

教育省は、インターネット接続状況にばらつきがあることや、新カリキュラム導入研修の実施と感染予防措置を講じての新学年開始準備が優先されることから、閉校中の遠隔教育や系統だった学習指導は行わないとの意向を表明していますが、今の状況が 8 月中旬の開校まで続くと、約半年の間、子ども達は学習機会のないまま過ごすことになります。都会の裕福な家庭の子ども達は私立校や民間教育機関のサービスを受け、インターネットの恩恵を享受できる一方で、僻地や貧困家庭の子ども達の中には、家事、家

業、労働に駆り出され、新学年に学校に戻れないケースも出てくるでしょう。学校に通えるとしても、6カ月間の学習状況の差は、新学年の学習に大きく影響してくるはずです。プロジェクトでは、授業再開前の学習機会を提供し、長期化した学校休業期間から新学年の学習への移行が円滑に行えるよう、授業再開直前の期間（7月13日から4週間分）に利用可能な自宅学習用教材と、自宅学習に関する保護者・教師向けガイドラインの作成を行いました。

開校後の「with コロナ」カリキュラム

学校再開の時期や通学パターンごとの授業日数が明らかになったことから、教育省の要請を受け、コロナ下の授業時数の減少や感染予防対策をふまえたカリキュラムの調整を実施中です。また、学校再開後の学習の2割程度を自宅学習で補う教育省の方針が示されたため、学校再開後の自宅学習に関する保護者・教師向けガイドラインの作成や、自宅学習用教材の作成も開始しています。

教科書や教師用指導書に復習や発展教材を含めている教科もありますが、本来カリキュラムに削ってよい部分などありません。また、カリキュラムにおけるすべての学習は学校での授業を中心に構成されています。その中で、授業時間が減るから、感染リスクがあるから、という理由で、見合わせたり自宅学習に切り替えたりする作業は、カリキュラム開発者にとって身を切る思いに違いありません。それでも、まずは子ども達を守るため、そして系統性の保たれた学びを継続させるため、制約のある中でのベストを提供していきたいと思います。コロナ下の学びをどう実現していくのか、感染対策を講じながらの児童中心教育について、わかりやすく伝えるビデオも制作中です。

国内研修あらためオンライン研修

加えて、5月に行う予定だったカウンターパートを対象とした本邦研修は中止となりましたが、代わりに8月にオンラインで開催することとなったため、こちらの準備も進めているところです。

プロジェクトでは、引き続き、ミャンマーの子ども達の学びが一日も早く再開するために、そして、真の学びが継続するために、できる限りのサポートをしています。

文責： 宮原光、大津璃紗
(プロジェクト・コーディネーター)
株式会社パデコ